

全国

保健師長会

だより

第35回全国保健師長会
代議員総会報告

平成25年11月2日に鳥取県鳥取市において代議員総会が開催されました。

冒頭の会長あいさつでは、25年の4月に発出された「地域における保健師の保健活動に関する指針」を踏まえ、さらには時代のニーズに沿った保健師活動を積極的に取り組んでいくことが表明されました。

来賓祝辞では、厚生労働省健康局長代理・がん対策・健康増進課保健指導室長の山田敏充氏をはじめ4名の皆さまからご祝辞をいただき、東日本大震災における保健師活動への評価や少子高齢化に

平成25年度第35回全国保健師長会
代議員総会報告

平成25年度鳥取県研修会報告

全国保健師長会 会長 加藤 静子

応すべく保健師活動の重要性についてのお話がありました。

基調講演

厚生労働省健康局がん対策・健康増進課保健指導室長山田敏充氏に「地域保健をめぐる国の動向とリーダーに期待すること」と題してご講演をいただきました。保健師活動指針の見直しにかかる検討会では、①保健師活動の本質 ②地区担当制 ③統括的な役割を担う保健師 ④災害対応 ⑤人材育成の柱に沿って議論され、特に「保健師活動の本質」という点では、「みる・つなぐ・動かす」活動、健康課題が顕在化している段階からの予防的介入、個々の事例の共通課題を地域課題としてとらえ、優先課題を判断してPDCAサイクル

ルに基づく活動を実践することなどが重要とされたこと、「地区担当制」は、業務が細分化される中にあること、地域全体の健康課題を把握するうえで必要な取り組みであることや、「災害対応」では平時からの体制整備が重要であることなどが話されました。特に、地区担当制の推進や統括的役割を担う保健師の項目は、過去に出された幾つかの検討会報告も踏まえ、指針に明記したとのこと。また、指針が発出されたあとに都道府県を対象に実施された調査では、20自治体が「指針の作成・見直し」を予定していること、市町村における指針の策定について、半分近い自治体から何らかの支援を行う用意がある旨の回答があったことが報告されました。

これらの結果を踏まえ、「統括的な役割を担う保健師」に関しては、各自治体における人材育成や、役割・機能についての具体的な議論を深めていただく必要があることを強調され、「県と市町村の関係が薄れているところもある中、指針をきっかけに関係づくりをしてほしい」と期待が寄せられました。

シンポジウム

「新たな地域の保健師の保健師活動指針を踏まえ、これからの保健師活動をどのように考え、展開していくか」をテーマに鳥取大学教授の松浦治代氏を座長に3名のシンポジストから発表がありました。鳥根県雲南市の上村氏からは、「統括保健師の役割を考える」と題して、分散配置された保健師の意見を横断的にまとめ、地域の課題を明確にしたうえで統括的保健師の役割を考えるべきと提言、北九州市の清田氏からは、「北九州市の保健師のあり方や業務運営方針による地域担当制の推進」と題して、統括的な役割を担う保健師の位置づけ、部署を横断的に連携し協働した保健師活動推進の実

践報告について、青森県の大鰐氏からは、「都道府県の立場から」と題して、県と市町村が連携し、「おらほの保健師」をめざして保健師活動指針を策定した経過についての発表がありました。

特別講演

高知県中央東福祉保健所田上豊資所長から「保健師活動指針等を踏まえて保健師に期待すること」と題してご講演をいただきました。冒頭「保健師なくして公衆衛生なし！公衆衛生なくして保健師なし！」とエールがあり、その後、指針が示す理念と現実の乖離

の問題、社会保障制度改革など指針見直しの背景を踏まえた保健師活動のあり方について示唆いただきました。災害支援からも多くの学びがあり、SOSを出せない人への対応や、住民力（ソーシャルキャピタル）を生かす活動、全体をとらえた組織横断的な調整が保健師活動の原点であること。また、理念と現実の乖離を埋めるためには、国からたくさんの方々が下りてくる中、事業本位ではなく地域に責任をもった保健師活動に転換しなければならぬこと。地域に出る時間をつくるためには、民

間に任せられるものは任せるなど思い切った業務のスリム化が必要であり、災害時のBCPを参考にした事業の見直しや事業仕分けなどの具体的な提案をされました。指針のキーワードは「地域の特性に応じた健康なまちづくりの推進」であり、その実現には、指針の見直しを契機に、いまこそ保健師が丸となって主体的な具体アクションを起こすとき、自己変革をすべきときであると述べられ、多くの参加者が痛感した講演でした。

代議員総会

出席者131名、委任状122名で規定代議員数が得られ、成立しました。提案された議案はすべて承認され、平成26年度全国保健師長活動方針では、「社会の課題に向き合う保健師活動の展開」が活動テーマに掲げられました。続く役員選挙では、新会長に現常任理事の鎌田久美子氏が選出され、副会長は佐川きよみ氏が続投、その他監事1名、推薦委員3名が選出されました。



特別講演を行う高知県中央東福祉保健所田上豊資所長



あいさつを行う加藤会長



「統括保健師の役割を考える」シンポジウムの様子

その後、各ブロック・部会・委員会から事業報告があり、最後に次期開催県である岩手県の赤羽さなえ氏よりあいさつをいただき、代議員総会は閉幕しました。

総会終了後には27年度の国家要望調査依頼の通知が發送されます。臨地実習に関する調査も予定されていますので、ご協力よろしくお願いいたします。

なお、詳しくは総会資料集およびホームページをご覧ください。

(文責 Ⅱ 広報委員会)

全国保健師長 鳥取県研修会報告

平成25年10月31日・11月1日、鳥取市において「新たな時代を見据えた保健師活動とリーダー保健師の役割」と題した研修会が開催され、全国から指導的立場にある保健師240人が参加して、25年4月に発出された「新たな保健師活動指針」を受けて保健師のめざすべき方向性や効果的な保健活動について考えました。

初日は、保健師活動指針検討委員の九州大学大学院の鳩野洋子教授が「保健師が目指すべき方向性

（地域における保健師の保健活動指針の見直し）」と題して講演をされ、「今回の指針は保健師の原点を見直そうという〴〵原点回帰が特徴である」ことを強調されました。

続いて、岡山大学大学院岡本玲子教授からは「効果的な保健活動と保健師の専門性」と題して、「自分の仕事をアウトカム評価に基づき住民に伝え、評価される保健師になることが求められている」ということが話されました。また、シンポジウムでは「健康な町づくり（他職種との連携を考える）」と題して、鳥取県琴浦町から〴〵認知症、和歌山県和歌山市から〴〵福祉事務所、広島県福山市から〴〵児童虐待防止をテーマに「保健師の役割と連携のあり方」について活動報告がありました。

2日目は、「地域保健をめぐる国の動向と保健師への期待」と題して厚生労働省健康局保健指導室山田敏充室長にご講演をいただきました。講演では、新たな保健師活動指針を中心に、地域保健をめぐる国の動向についての説明と、保健師の配置の促進や活動の成果・課題の自治体内外での共有の必要

性、保健師活動の可視化への努力が要請されました。次いで、加藤静子会長から「今、保健師のリーダーに求められること」と題した講演があり、今、我々がすべきこととして、地区担当の推進と地区診断、保健師活動指針の策定、人材育成計画策定であることが示されました。その後、香川県立保健医療大学の高嶋伸子教授による「保健師の現任教育に求められること」の講演と、人材育成に必要な

な体制整備についてのシンポジウムが行われました。

参加者からは、「たいへんタイムリーな内容だった」「自分の活動を見直し、いま自分ができることから取り組んでいきたい」など、前向きな意見が多数寄せられました。

(文責 Ⅱ 全国保健師長会)

鳥取県支部長 長谷川ゆかり



全国保健師長鳥取県研修会の様子